

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和6年2月13日

提出区分	実績	整理番号	8	課題区分	C		
横断的な課題	木曾らしさを活かした観光振興						
地域重点政策	木曾らしさを活かした観光振興					木曾地域振興局	
実施機関	木曾地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	木曾地域観光資源等魅力発信事業				電話	8-238-2241	
					E-mail	kisocho-shokan@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	木曾地域への来訪者が多く、中京圏に向けて木曾地域の観光資源を発信、コロナの影響で落ち込んだ観光者数の増加を図る。					
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響は根強く、当地域の令和4年度のグリーンシーズンの観光客数は64千人で、コロナ前にあたる平成30年度の60%ほどである。 同じく平成30年度の長野県観光機構によるエリアレポートによると、観光目的で木曾地域を来訪する全国内旅行者のうち、東海地方からの旅行者の割合は51%と半数以上を占め、これは県平均の倍以上である。また、リピート率も県平均と比較して高い。 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、国内観光客の増加が各地で見込まれていることから、当地域への観光客数の回復のためには、アクセスが良く、人口も多い愛知県を中心とする中京圏に対して、継続的に観光資源を発信していくことが必要である。 また、県名古屋事務所とも連携しながら、令和6年度から利用可能になる新しい中日ビルを中心とした中京圏へのPRに向けた検討や準備を進めていく必要がある。 					
概要	内容	<p>①栄駅(名古屋市)における観光PR展示の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県名古屋市の栄駅地下街「サカエチカ」のショースペースにおいて、県名古屋事務所や木曾管内の他町村等と連携し、地域の観光資源をPRする。 今年度は、誘客強化の観点から季節に応じた木曾の観光資源やアクティビティに係るPRを行う。(昨年度の展示では主に管内各町村や日本遺産木曾路に焦点をあてたPR展示がメインであった。) 具体的には、7月3日～26日の期間において、王滝村と連携し自然湖のカヌーやキャンプに係る展示を行う。 8月以降のショースペースへの展示について、9月6日～10月2日の期間において、木祖村と連携し、紅葉の写真パネル展示や今年のインターナショナルワインチャレンジの日本酒部門で最優秀賞に輝いた湯川酒造の日本酒(地酒)等に係る展示を追加で実施する。 <p>②新中日ビル等活用した中京圏に対するPRに向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から新しい中日ビルが利用可能となり、ここでは物販等(サカエチカ展示では実施不可)についても実施できる見込みである。これまで実施してきた観光振興をベースにしつつ特産品や伝統工芸品の振興もできるようになるため、観光資源の大きなPRの場になると考えている。この新中日ビルを中心とした中京圏へのPRについて、令和6年度以降の具体的な事業の実施に向けた準備を県名古屋事務所とも連携しながら進めていく。 具体的には、木曾の観光PR展示や木曾の物産PRについて新中日ビル等での実施を考慮しており、事業の具体的な方法(実施時期・内容等)について、名古屋事務所等で実施している説明会への参加や、新中日ビル及び周辺の現地確認を行い、検討していくための環境調査等を実施する。 					
	事業期間	R5.7		～	R5.12		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容等	計画(実績)額	備考			
	観光PR展示	木曾の観光地等のPR展示経費	57,657	展示用消耗品等:35,817円 ETC:21,840円			
	来年度の事業実施に向けた調査	新中日ビルの利活用に係る説明会参加及び環境調査等	67,600	職員旅費:67,600円			
	合計		125,257				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	夏季観光動向調査における観光地利用者数(王滝村の地点を含む管内2か所・令和4年度64千人)		70千人	101千人	<input checked="" type="radio"/> 達成 <input type="radio"/> 一部達成 <input type="radio"/> 未達成		
事業実績・成果	<p>夏季観光動向調査における観光地利用者数は目標値を44%上回り、前年比では57.8%増(全県は12.5%増)となった。なお、本事業における取組・成果は次のとおり。</p> <p>①栄駅(名古屋市)における観光PR展示の実施 王滝村、木祖村及び木曾観光連盟と連携し、カヌー、キャンプ、地酒、紅葉など、旬のテーマや観光資源活用した約1か月間のPR展示を2回実施した。木曾地域への来訪者が多く中京圏の中でも、特に人通りが多いエリアでの観光PRが来訪者の興味・関心を高め、目標達成に寄与したものと思われる。</p> <p>②新中日ビル等活用した中京圏に対するPRに向けた準備 新中日ビルの現地確認及びビル運営会社、県名古屋事務所及び木曾管内の町村・広域連合等からのヒアリングを実施した結果、主に、新中日ビルが、ホテル、オフィス、商業施設を有し集客ある複合ビルである点、同ビル内のイベントスペースが十分なスペース及び付帯設備を有している点、県事務所や集客施設に近接している点、同ビル内のアンテナショップとの連携できる可能性がある点に加えて、広域連合等が同ビルでのイベント実施を希望している点等を確認でき、次年度以降のイベント開催に目途をつけることができた。</p>						
今後の方向性	<p>栄駅における観光PR展示で醸成してきた当地域への関心、目標値を上回る当地域の観光地利用者数といった環境を活かし、中京圏で特に注目を集める集客力ある場である新中日ビルを活用し、町村・広域連合・関係機関等と連携しながら効果的な観光PR等を行っていく。</p>						